

UFOライン

町道から森線は西日本最高峰の石鎚山へ続く、四国で最も高い山岳地帯を通る道。雄大な山々が続く道といふことから「雄偉ライン」と呼ばれていたが1987年10月12日登山者から撮った写真に二つの未確認飛行物体が写り、高知新聞に掲載されたことから大きな話題となり「UFOライン」として定着していった。旧寒風山トンネル駐車場から石鎚山土小屋に向けて延びる約27kmの超絶景ドライブコースであり登山者やライダー、サイクリストはじめ77人の人々が訪れている。11月末から4月中旬は冬期通行止め。

桑瀬峠

工佐の本川郷と伊予の西条を結ぶ往還道で日用品、食料、木材まで人の背によりこの峠を越えて運ばれていた。寒風山の山越しは西条側にある川乗須に馬が品物を運んで7商店があり、その店へ桑瀬峠から買っていく。えらい人は木なら一俵(60kg)ほどを背負って三時間あまりかけて運んだという。特に冬は重い荷物と背負い深い雪を足音で分ける大変な山越えだった。

寒風山

風がはぶ雲やはらかな山並みのんびりと見る。

16の急カーブ



桑瀬峠

寒風茶屋

WC

ゲート

木材の運搬

伊予富士

素堀川氷

No. 140



感動はあというまに過ぎ去る。あんなに感動したことがない。さあ、今が通り過ぎる前に瞬間を写真で見返して言葉を紡いでいこう。

一瞬の感動には敵わない。さあ、今が通り過ぎる前に瞬間を写真で見返して言葉を紡いでいこう。

山の峰々は長い時間をかけて自然の営みによって創られた。峠は里と里を結ぶ頂点として喜び悲しみさまざまな思いを胸に越えていった人々の足跡を刻みながら創られていた。

四国一高い道から、北に瀬戸内海南に太平洋を見下ろす絶景にまごころ。西日本でいちばん空に近い道だ。

春はアケボノシジ。夏は瑞々しい新緑。秋は紅葉や霧氷。冬は雪と氷の世界。山は四季それぞれに息づき、そして大きく姿を変える。

可愛い草花やかわいい虫たちにも出会える。

四国のまん中すばらしい自然

寒風山～石鎚山筒上山や手箱山山と空の大パノラマ

伊予と工佐の境にあることから予佐越えと語られ、昔と語呂合わせによりと桐ヶ森林道が開通した時に当時高知管区長が名付峠。

どろどろの空。どこまでも続く山並み。ここぞしか味わえない爽快感を体感できる。

UFOラインから空を見上げる。雲が刻々と姿を変えて流れていく。雲を見るだけでおもしろい。

山の天候は一日に七度変わるといわれる。深い谷から上りてくる霧や山頂から吹き下ろす雨滴を含んだ風と雲。気温も上下する。天気の良き日も油断なく、安全な山旅を楽しもう。

旧本川郷のユマドツ

森下嘉晴



しらさ峠

峠の由来はササの枯れた状態を白笹(しらさ)と呼ぶことからしらさ峠と名付けられた。この山本川の寺川から白猪谷を経由して峠に至り、西条市の西へ川へ通じている。昭和初期には郡門や寺川の娘さんが西へ川へパーマをかけるために往復していたというエピソードも残っている。

しらさ峠

山荘しらさ

子持権現山と伊吹山の鞍部に広がるササ原に赤い屋根の山荘しらさが建ち、UFOラインを訪れる人々にささぎと慈いのかとして愛されている。

伊吹山

土小屋の標高は1492m。愛媛県の日国名伊予国。1302m。

土小屋

美しいナナ林

よさこい峠

岩黒山

石鎚スカイライン

筒上山

手箱山